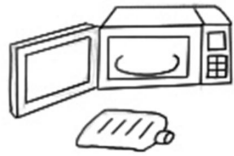


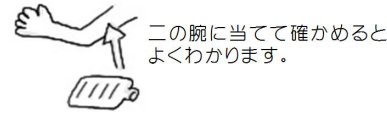
# 自宅での皮下補液療法

① 輸液バッグを電子レンジで温めます。

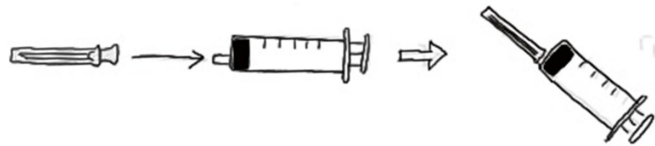


500mlの場合、  
500Wでおよそ50秒くらいです。  
輸液バッグ内の液体量や元の温度によっても変わるので適宜調節して下さい。

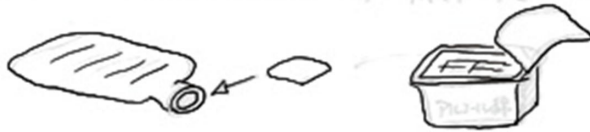
\* 熱すぎないように注意して下さい。  
40度前後が目安です。



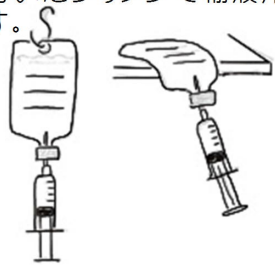
② シリンジ(注射器)に注射針(ピンク色)を付けます。



③ 輸液バッグのゴム栓部分をアルコール綿で拭き、消毒します。

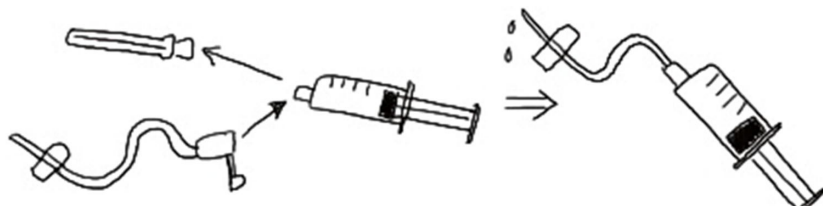


④ 注射針の付いたシリンジで輸液剤を( )mlの目盛りまで吸います。



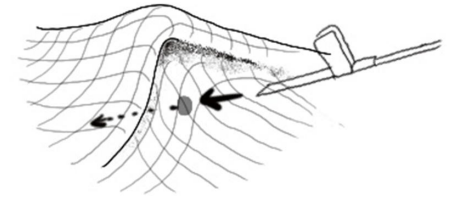
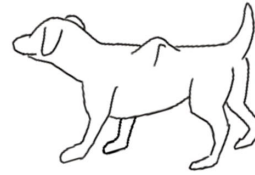
どこかに吊るすか、置いて行くと  
やりやすいです。

⑤ 輸液剤を吸い終わったら注射針を取り外して、翼状針(緑色)に付け替えます。



シリンジの内筒を少し押し、  
翼状針の先まで輸液剤を満たします。

⑥ ( )ちゃんの背中中の皮膚を引っ張って三角形のテントを作ります。  
針を刺す部分をアルコール綿で消毒します。



⑦ 針を皮下まで刺します。



翼状針は翼の部分をつたんで持ちます。  
ザラザラの面が外側になるように。



皮膚の方を引き寄せる感じで。

⑧ 針を刺したら、シリンジの内筒を押し、輸液剤をゆっくり入れて下さい。  
輸液剤が外へ垂れてくる場合は針が皮膚を突き抜けている事があるので、  
もう一度針を刺し直して下さい。

⑨ 1本目の輸液を入れ終えて2本目に付け替える時は、液があふれたりしないように  
翼状針のキャップを閉めるか管を折り曲げて次のシリンジに付け替えて下さい。



キャップをしたり管を折り曲げることで、液があふれたり、  
空気がたくさん入ったりしないようにするためです。

⑩ 輸液剤を入れ終わったら翼状針を抜き、少しの間針が刺さっていた部分を  
アルコール綿で押さえてください。  
(針が刺さっていた穴から輸液剤が漏れることがあるためです。)

⑪ 使用後の用品の保管方法や廃棄方法は裏面をご覧ください。

( )ちゃんの  
1回輸液量は < >mlです。  
1日 回

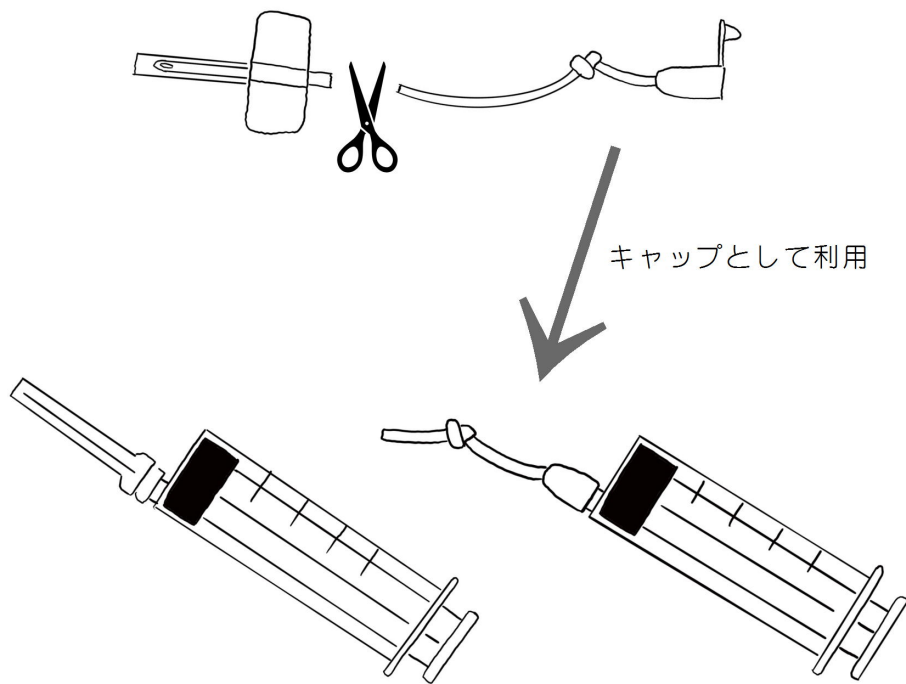
解説動画は  
こちらから



## 〈保管方法〉

注射針・シリンジは1回使用の製品ですが、衛生的に管理することで開封後から1週間程度再使用することができます。  
※翼状針は毎回新しいものを使用して下さい。

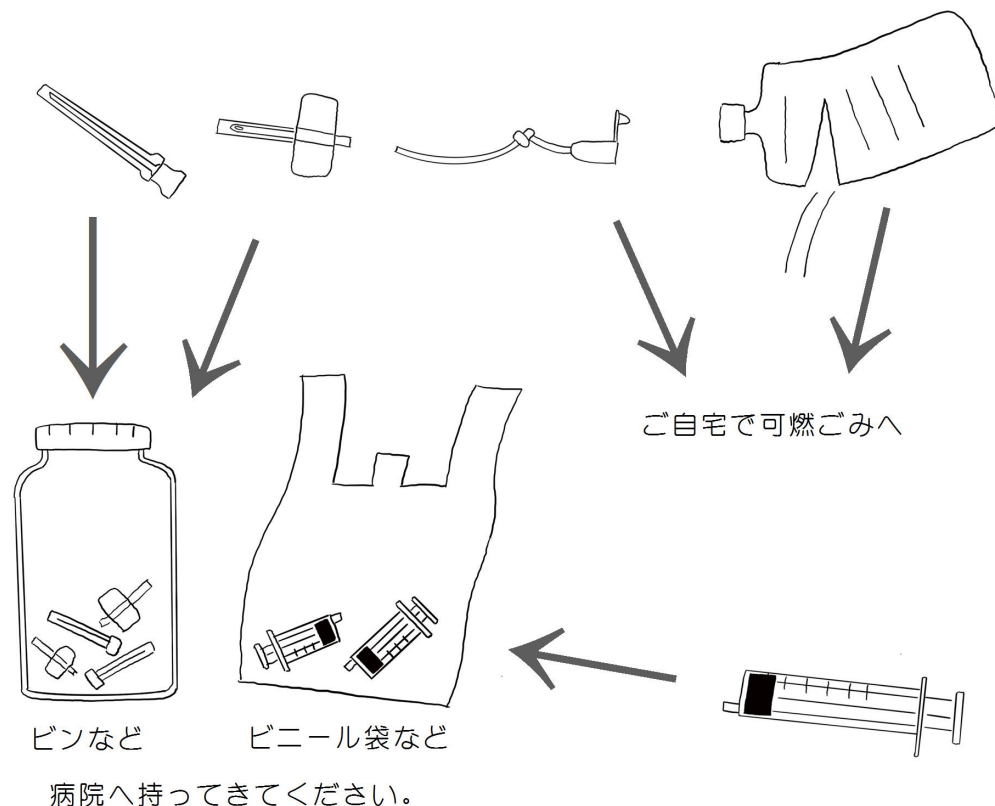
使用後のシリンジには注射針を付けておきましょう。  
また、使用済みの翼状針もシリンジに付けたままの状態、ライン部分を結び針部は切断しておきましょう。  
(注射針と同様に、キャップ代わりになります。)



シリンジには注射針や翼状針のチューブをキャップとして装着して保管。

## 〈廃棄方法〉

- 輸液バック:バック内の液を空にして可燃ごみとして廃棄して下さい。
- シリンジ:注射針等は外してビニール袋等にまとめて病院にご持参ください。
- 注射針:針刺し予防の為、必ずキャップを付けて病院にご持参ください。
- 翼状針:ライン(針部以外)は可燃ごみとして廃棄して下さい。  
針部はキャップをつけて切断してから瓶などの蓋つきの容器にまとめて病院にご持参ください。



※ご不明点がありましたら、病院スタッフにお尋ねください。